

## 令和2年度第2回伊勢市子ども家庭支援ネットワーク委員会議 議事録

日 時	令和2年12月2日(水) 午後1時30分～
場 所	伊勢市役所東館5-3、5-4 会議室
出席委員	中井会長、清水副会長、嶋垣委員、奥田委員、久保田委員、秋山委員、濱口(恵)委員、鎌田委員、田口委員、川口委員、西川委員、金森委員、岡村委員、中村委員、木下委員、右京委員、加藤委員、山崎委員、堀川委員、濱口(基)委員、高村委員、大島委員、西村委員
欠席委員	樋口委員
事務局	鈴木市長、健康福祉部参事、こども家庭相談センター長、女性相談員、ほか2名
議 題	議案第1号 伊勢市子ども家庭支援ネットワーク上半期活動実績について 議案第2号 「児童虐待防止推進月間」における活動について 議案第3号 子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について 議案第4号 その他

### 1 あいさつ

【市長あいさつ】

【事務局】

開催挨拶、委員紹介(書面)、出席・欠席委員報告、事務局紹介、配布資料確認

【会長あいさつ】

### 2 報告・協議事項

議案第1号 伊勢市子ども家庭支援ネットワーク上半期活動実績について

【事務局】 議案第1号について説明

【各委員】 特に意見なし

議案第2号 「児童虐待防止推進月間」における活動について

【事務局】 議案第2号について説明

【各委員】 特に意見なし

## 議案第3号 子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について

【事務局】 議案第3号について説明

【各委員】

○委員

DVと虐待と繋がった事例で、実母の高い依存性、虐待者の衝動性、攻撃性、怒りのコントロール不全、それらが改善されれば施設から家に帰れるが、それをどうしたらよいかと思いつつ関わられる範囲で関わったりしているが、そこがいつも一番難しいところだと感じている。

子どもはもともと実家庭に戻れるのが一番良いのだが、家庭に戻るとなったら、親の依存性等が改善されなければいけない。私たち要対協の取り組みというのは、日頃は、元にある原因に対してそれぞれの各方面で具体的に日常ベースで、各部署で何ができるかということに改めて問われている気がする。

○委員

養育支援について、早めに支援に入ると、お母さんも親子関係を整理できとてもいい感じになる。片やこじれたご家庭に入ると、こちらとしてはお母さんにも支援したいが、お母さんがなかなかそれを受け入れない。

まず、保護者との関係づくりをする。保護者への支援が特に必要。保護者が子ども時代を子どもらしく過ごしていなかったわけなので、保護者に「あなたは大事な人よ」というプログラムをしないといけないと思う。誰か先生が入りながら自分たちでエンパワメントしていくプログラムをしていかないと家族再統合は難しいのではないかな。

○委員

伊勢市では、虐待がコロナ禍で増えて、その特徴というのか、こういうことで増えてこういう対応をしましたという簡単な報告をしていただければと思う。

児童養護施設として、コロナ禍の状況で上半期を見ても前年から爆発的に2倍とかには増えていないという状況である。

母子生活支援施設も同じく、空き状況について等の問合せは、確かにこのコロナ禍で大体2倍くらいに増えたが、ただ実際来られないという方もいる、そういう状況である。

【事務局】

特徴的なところとして、児童の虐待の件数もDVも増えている。今年は、女性相談、一時保護の件数も多く他機関と連携をとったりしているケースも多い。その中でも特にDVと子どもの虐待というところで、母子生活支援施設に入った一時保護の事例があるのでその事例を紹介させていただく。

## 【事務局】

### 事例紹介

## 【各委員】

### ○委員

児童福祉法でも家族再統合に向けて努力するという事になっているが、親への的確なトレーニング・支援策があまり見られていない。まずは、子どもを施設にお願いをしながら、児童相談所が親と定期的に面接をし、反省点が見られたら、面会、外出という形でやっていくというのが児童相談所のやり方になっている。

例えば100人の虐待通告があれば、93～94%が家に帰るという形が全国的にもなっている。一時保護をしてもまた家庭に戻るの、地域での支援が非常に重要になってくる。DVの加害者の特徴は分かるが、ただの夫婦喧嘩かDVかの見分けがなかなかつかず、その辺りは普段から関わって頂いている地域の方、学校の先生が保護者会で親と面談したとき、どうい感じか常日頃から気を付けて頂ければと思う。

### ○委員

虐待通告があっても90数%はそのまま在宅・通所になる。そうすると委員の皆様は毎日毎日そういう可能性のある方と接しておられる。その予兆は、軽症から重症へと進むというのが一般的なことなので、改善の余地がある軽い間に、傷が深くない間に何らかの形で支援、寄り添いの行動が取れたらと思う。親や子と会われるという現場をお持ちの方々は、そういった意識を持ちながらいろいろと工夫をして頂いているのではないかなと思う。

### ○委員

閉校期間中というのは情報がなかなか入ってこなかった。家庭の子育てが思い通りにいかないがために手が出るという事例があった。親の日々の子育てについて、子どもにどう寄り添っていくのかというスキルみたいなものも必要かなと思う。家庭で困っていることがいろいろ違う。

### ○委員

子どもの虐待はなかなか医療現場で見つけることは難しく、具体的に見抜いて報告してというところまでは繋がりにくい。

ネグレクトっぽいと感じる人は入院の病棟でみるが、ベッドの下がゴミの山になっている方もみえ、色々なことがマネジメントできない家族なのかなとみてはいる。

DVを受けている妊婦・特定妊婦も病院に来るが、愛情の裏返し・愛情表現と考えている女性の方も中にはおり、病院の中で見抜くというのは結構厳しいラインである。

精神疾病をお持ちの患者様同士のご結婚・妊娠・出産が結構多くあるが、色々な地域の方

に助けをいただきながら育っているのだろうなと思っている。赤ちゃん・子ども自体は健康的な問題はなく、医療にはあまり来られない。

精神疾患同士で結婚されても内服さえすれば一般の方と同じように遜色なく生活できるというのが増えている。お互い共感しあえるということでご結婚されているのでは思う。

#### ○委員

父母ともが精神疾患というのは確かに多くなってきたなと感じているが、親自体は子どもに対する愛情は持っている。

DVの相談では、暴力を振るう方・振るわれている方どちらの生育歴の中にも暴力が常にあってきた方たちが多くて、暴力的なものが悪いんだという認識がなかなかされていないのかなと感じた。治療法・支援がもう少し充実すればと思う。

#### 議案第4号 その他

【事務局】 議案第4号について説明（里親説明会の案内）

【各委員】 特に意見なし